

# 高退協ニュース

## 全退教第16回定期総会に

参加して

顧問 岡崎清恵  
第16回全退教総会が6月7日、8日箱根湯本で43組織から85人の代表が参加して開催されました。

高知高退協からは顧問の岡崎が参加し、活動報告をしました。とりわけ「山原健二郎資料室」に関する御礼と今後の活動について訴えました。

全退教も15年の歩みの中で着実な前進をみせており、全国的に活発な取り組みが展開されているようです。

全退教は「楽しみ七分、運動三分」を活動原則としています。憲法や教育基本法改正法案が国会に上呈されている情勢の下で、「運動五分」を目指そうという意見が多く出されました。なお「教育基本法改悪を許さず、教育基本法改悪法案の廃絶を！」という特別決議が満場一致で採択されました。

## 高知県革新懇二〇〇六年度総会開催される

平和・民主・革新の日本をめざす高知県の会の二〇〇六年度総会が八日、自由民権記念館で開かれ六十三人が出席し、平和と暮らしの問題で論議がされ、今後の運動の強化を確認しました。春名眞章さんの記念講演「日本の進路と政治革新の展望」について、各団体、地域組織からの交流発言が行われました。(報告 小澤)

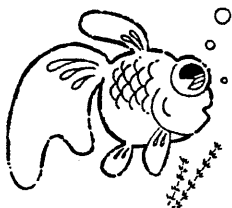
## 夏季学習会

8月24日(木) 午後2時より  
高知城ホール

講師

田所 金久さん  
宮川 敏彦さん

新聞報道でご承知のとおり、田所先生は「語り継ごう 元戦士たちの証言」、宮川先生は「木村俊光 車いすで歩んだ半世紀—学ぶ・働く・仲間と生きる」の出版に深く関わってこられました。これらの著書に関するお話をして頂きます。多数ご参加ください。



## 県高知高齢者運動連絡会△△△の総会△△△ 学子習△△△(5/12)

「高齢者の権利を守り発達を保障しよう」県高運連(小澤幸次郎会長)の06年度総会が5月12日、高知生協病院会議室で開かれました。会長挨拶につづいて、総会では、①憲法6条と25条を守る取り組み②医療改悪反対、③自治体の社会保障制度の活用・改善に向けた実態調査などに取り組む06年度方針を確認しました。

学習会では、高知保険医協会の重光新一・事務局長が「06年診療報酬改定と医療制度改悪」をテーマに報告され、これによって、医療費の自己負担が増え医療が受けづらくなる問題点が指摘されました。

## 県社保協が 医療改悪について学習

高齢者医療制度新設などによる利用者負担増を押し付ける医療制度改悪法案についての学習会(県社保協・田中きよむ会長の主催)が10日、愛野谷安孝・中央社保協事務局次長を招き、高知市の文教会館で開かれ80人が参加しました。

## 高知県母親大会

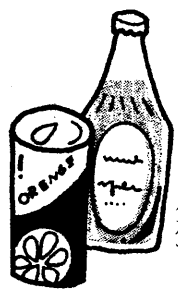
(7月2日)

於 高知大学

「平和・愛・憲法が生きる社会を」をテーマに、延べ550名が12分科会、4特別講座に参加し、熱い討議が重ねられました。

記念講演では、平和活動家のきくちゆみさんが「平和のために 私にできること」と題して、今からでも遅くない、戦争は止められる、と、多くの具体的な提案をされました。きくちさんは9・11テロ以後、なんとしても戦争を止めねばと、アフガニスタンへの報復戦争に反対する意見広告をニューヨークタイムズ・ロサンゼルスタイムズに出すためのカンパ運動に、日本で取り組みます。その後も、「テロリストは誰?」というビデオ10本のドキュメンタリーの自主上映をしたり、「戦争中毒—アメリカが軍国主義を抜けない理由」というマンガを翻訳出版したり、アメリカがなぜ戦争をやり続けるのか、その真の目的は何なのか、真実を明らかにし理解を広げる活動を幅広く地道に続けています。

戦争を止め、子どもたちが安心して暮らせる地球をつくり、平和を願う人々をつなぐために、今こそ私たち一人一人が行動しなければと強く訴えました。(林)



## 旅のお知らせ

温泉昼食会を十月十一日(水)に芸西の土佐ロイヤルホテルと安芸の武家屋敷へ行く計画中です。詳しくは九月のニュースに同封します。

親睦旅行の案内も今月のニュースといっしょに送ります。

## 草席老語

罇(ゴマメ)の歯ざしり

米軍再編 独ゼロ、韓国6300億、日本2兆円、これに加えてわが国は今後毎年2千億円増の8千億円に上る思いやり予算を支出するという。高知の記事である。「取れる国から取る」米、という見出しも躍っていた。

その上米軍第一軍団司令部が神奈川県に移転してくる。外国の軍司令部が首都近くに常駐し、自国の軍隊(自衛隊)が共同作戦の名の下にその傘下に組み入れられ他国の意のままに働かされる。これが独立国の姿といえるだろうか。

また、これらのことを容易にするために「防衛庁」設置を議論、教育基本法の改悪、憲法改悪さえも狙っている。どこまでアメリカの腰巾着になるというのだ。歴史認識を欠いた靖国参拝と相俟って、世界中の鼻つまみになってしまおう。

医療制度改悪法の成立、高齢者・低所得者からも容赦なく高税を取り立てる一方で、零金利政策の下、空前の利益を上げている大銀行・大企業優遇の税制、「貯蓄から投資へ」と国民をあおりたて、秃タカのごとき投資ファンドに巨利をもたらす経済システム、安全性の検証をあいまいにしたまま米産牛肉の輸入を図るなど、悪政は挙げればきりが無い。自殺者数も8年連続で3万人を超え社会問題となっている。もはやこの国には住みたくない。とはいえ日本脱出がかなわぬ以上、「ゴマメ」ごとく卑下してはおれない。主権者にヘンシンしてこの流れを何とか阻止しなければ悔いを後世に残すことになる。(T、K)



高知高退協事務局  
2006.7.19  
No.141

高知県高等学校退職教職員協議会  
高知市丸ノ内2丁目1-10  
TEL 088-1822-1682  
TEL 088-1822-1682  
郵便振替口座 01655012111893

今、高教組は

今年も七月二五日から、日本一厳しいのではないかと思われる。〇七年度高知県教員採用選考審査が始まります。県立学校では、審査の実施教科が昨年より増加しました(音楽・美術・家庭・商業)。

Table with 2 columns: 審査教科 (高知県立学校教科), 中・高等部 (国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 英語, 音楽, 美術, 家庭, 商業, 工業, 電気, 電子, 機械, 建築, インテリア)

活動日誌

- 4日 山原健二郎資料室オリソン
14日 第二回事務局会【7月】
2日 高知県母親大会
4日 ピースウエイブ



旅のしおり

久住山・由布岳登山

「山の会」六月例会 ミヤマキリシマで山肌がピンクに染まる九重連山と、湯布院の背後にそびえる、秀峰由布岳を二泊三日で登る欲張った計画が今回の山旅である。

翌朝は一行の普段の行いが良いのか、はたまた昨夜のお疲れが利いたのか、梅雨のあいまの登山日より。平日にもかかわらず駐車場は満車、我々中年だいでなく結構若い人も目立つ。

二日目の宿は由布岳の北麓に広がる別荘地、塚原高原の静かなペンションを借り切る。近くの日本第一位(何が?) 塚原温泉で汗を流し、宿自慢の地鳥の炭火焼きとビールで乾杯。明日も全員が由布岳をめざす。

新加入の皆さん

敬称略

- 小島淳子・黒岩敦子
島本 聡・八波聖子
松山和雄・飯田まゆみ
田中啓三・棚井正持
彼末恵美・田村昌子
大原千鶴

以上11名



ワールドカップ雑感

普段「リーグ」も見ないのにワールドカップで俄かサッカーファンとなり、日本の三試合、準決勝、決勝と見まくった。日本が不甲斐なく負けてからは気楽になり、純粹にゲームそのものを楽しめたが、他のゲームを見るにつけ、つくづく日本のサッカーは幼稚園だと慨嘆した。

負けると、マスコミの論調がパーツと、弱いことは分かっていたと一変した。ええっ！それまではサポーター並みに浮かれていたではないか。負けそうなる予想にお目にかからなかったの、私はそのこにも憤慨した。正直な意見はご遠慮願ったのだろうか。

ミサイル発射も、テレビでは、二発目、三発目とテロップが流れ、なんともセンセーショナルな報道だったが、最近、アメリカの政策が北朝鮮を追い詰めた結果だという反省がアメリカ内部から出ているという記事が目につく。

呼び

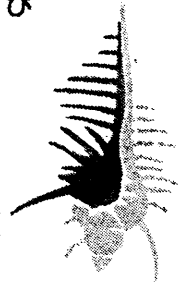
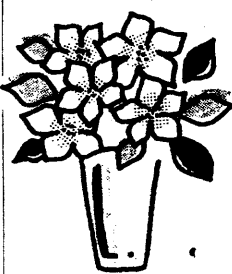
山本景子

新聞の三面記事に目を奪われている。特に秋田の主婦が隣人の小学生を殺害した容疑の、目を追って小さくなる記事を読みつつ、彼女の悲劇の結末に心が痛む。誰かに相談する機会はなかったのだろうか。じっと耳を傾ける人を探するのは、苦難の業かもしれない。

ここ数年、人の話を聞けるよう自分の変容に期待しているが、つい、いつの間にか自分が発言して、失敗も多い。私自身、心の内を見せてもよい人に出会うことが先決であった。「探せば必ず居る」期待通りに目の前に現れた人は、何年じつと私の声に耳を傾けてくれただろう。十分な時間を与えてくれていた。心のしこりが溶け、自由な魂が私を開放して行った。厄介な人の心である。人と約束する時は自分を開放し、十分な時を持つ心掛けをその人は身をもって教えてくれたのである。

つい最近、素敵な道を歩んでいる人々に出会った。一人は教え子である女性。夫に虐待を受けた苦難の経験を生かして、自宅を改良して、苦しむ女性たちの駆け込み寺を作り、既に二十人は助けているとのことであった。彼女の生き方の大きな変革に驚くとともに、胸の底から尊敬の念が沸き上がってきたのであった。また、赤岡カトリック教会には、青涛の家がある。被害を受けている女性を保護しているのは、シモン神父様と武田・清藤さん姉妹である。三人とも八十歳を超える年齢となった。どの人も目立たず、静かに人々の苦しみを受け入れ、人々の心に耳を傾けるだけである。結論を急がず、説教をせず、痛みが自然治癒するのを待つ。

駆け込み寺があり、青涛の家があれば、決して犯罪にまで走ることはなかっただろう。秋田の主婦の叫びが聞こえてくる。



中村

坂本敬子

素戔嗚尊日記

坂井 幹之

山陰の名峰異譚

中国地方には名峰として全国的に知られたっている山は多くない。「日本百名山」に載せられているのは伯耆大山のみである。著名な山を西から上げてみると三瓶山、大山、蘇山、三徳山、氷ノ山などである。順次、関わった思い出を参考に書いてみよう。

三瓶山は名称の頭に男、女子、孫が附けられている四峰からなっているコニーデ型の火山で、秀麗な山容を誇っている。また「出雲の国引き」の伝説が残されている。

次に、大山と蘇山であるが「山の会」で訪れたことがあるし、ご承知の方も多いと思うので省略しよう。

三徳山(みとくさん)はラジウム温泉で有名な三朝町にある。芭蕉の「閑けさや...」の句で有名な山形の「山寺」の雰囲気を持つ三仏寺の山城である。奥の院は山の中腹にある。

山原健二郎資料室友の会  
ご案内とお願

高退協の仲間を始め、県内外からの約三二〇〇人を超える方々の浄財によって、見事に完成し、去る七月四日(日)、オープンすることができました。本当にありがとうございます。また、この資料室をながく維持発展させるためには「人とお金が必要」です。そこで、「山原友の会」を結成いたしました。

入会のご案内とお願いを今月のニュースに同封させていただきます。ご入会を、そして、カンパのお訴えをしております。(送金の際の振替料金のご負担も)また、当番への登録も併せてよろしくお願いたします。(和田・小澤)



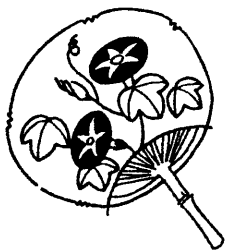
訃報

上田初男さんが6月9日死去されました。慎んで冥福をお祈りします。

り、岩窟の中に仏堂がある。

「投げ入れ堂」と言われ国宝に指定されている。伝説によれば千三百年前に役の行者が投げ入れた仏堂であると言われている。本堂からこの奥の院までの山道はもの凄いい。一時間足らずで登れるが登山口から一気の登りで、「馬の背」「牛の背」など難所の連続である。雨が降れば入山禁止となる。われわれも二年越しで念願を達した。登山の山ではない。修業の道である。

最後に氷ノ山(ひょうのせん)であるが中国第二の高峰で標高一五〇〇、鳥取と兵庫の県境に横たわっている。西日本有数のスキー場でもある。山城の広い山で登山ルートは多い。われわれは氷の越え(昔のお伊勢参りの道)から頂上を経て三の丸コースを辿って下山した。途中は背丈の高い笹藪の道で、藪とカッコワの合戦の中、ところどころの残雪に驚きながら、最後はゲレンデを走って帰路に着いた。(六・一記)



「意見をどうぞ」

よろしくおねがいします  
第1回事務局会で、会員の方々に高退協の運営や機関誌・ニュースの内容や親睦旅行等々について意見を聞くべきとなりました。

高退協は、会員の1割参加を求めて諸々の行事を企画していますが、なかなか実現しません。特に、旅行は、25名の確保にも苦勞しています。ニュースは改善することになりました。

高退協結成30年については検討していきます。そのことも含めて、ご意見下さい。ぜひよろしくお願いたします。

事務局会

短歌

山原資料室誕生に寄せて

叶岡淑子

南の熱き炎のあかあかと山原資料室いま誕生す

母恋ふる絵手紙ごとくに輝きて。人間・山原の八十余年

草の根の反戦平和の殿堂よ未来を紡げいつの世までも

五月の雑詠

榎原忠彦

紅葉橋の辺に今年も初夏のしるしにやたわわに咲ける桃色櫻

地中海の珊瑚軸とか万年筆十年使ひてやつとその良さに馴る

わが庭に真紅の石榴目立つればひよいと浮かぶ詩「万緑叢中紅一点」

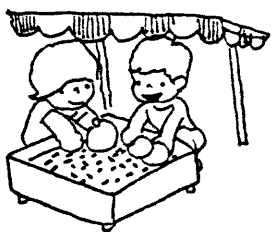
日々の暮らし

山本晶子

焼酎に漬けし梅の実丸々とふくらみて見ゆ砂糖も溶けて

不思議なる食感もちしこんにやくを作りつつ思ふ先人の知恵

混沌の時代にありて確かなるものは手作りみその熟成



いろいろなクラブ

フライデーニスクラブ

毎週月・水・金9時半〜12時半、初級・中級にわかれてプレーします。ほとんどが春野コート・とれない場合は市営、サンピア、東部も使います。

年二回テニス大会

夏・冬の懇親会

夏の合宿、県テニス大会への参加など行事も盛り沢山、楽しい会です

高退協の方は

梶原まで(TEL)843・5625

スキークラブ紹介

毎年大きくてもしかも眺めの良いスキー場を選定し、楽しく元気にスキーを満喫しています。

高退協の仲間だけでなく多くの退職者が参加し、体調や年齢に応じて技術を追求したり楽しさを全面に出したり雪山での一時を堪能しています。昼間は山頂からの眺める景色や樹氷に感動したりして夜の部では一杯飲みながら懇談したりと冬ならではの楽しみを満喫しています。

冬の苦手な人も十分楽しめます。少しでも滑れることが出来る人の参加をお待ちしています。



山の会

山の会の年間計画は次の通りです。実施日は担当者がそのつと決め、会員に知らせています。会員外も参加できますが、保険はありません。行きたい山があれば早めに担当に連絡してください。(紙面がありません担当者の「TEL」は名簿で)

- 8月 常念岳・蝶ヶ岳(津野松英・上岡積) 9月 中東山(中村正博・上岡積)
- 10月 西黒森山(山本圭一・山口章男) 11月 佐々連尾山(上岡・中村)
- 12月 鷹羽ヶ森(山口・山本・小島真子) 1月 初歩き(場所未定)(小島・竹島・和田)
- 2月 石土の森(和田・山口・津野) 3月 千本山(山口・津野・和田) 4月 焼山寺山(和田・上岡)

読書会へどうぞ

二カ月に一度、ムトーの二階に集まって、課題の本についての感想や意見を自由に語り合います。次回の本を選びますが、二カ月あるので充分時間があります。

一人での読書ではどうしても自分の好みに偏りがちですが、他の人からの推薦で思いがけないジャンルに出会うこともあり、楽しみです。

興味のある方はぜひメンバーに声をかけてください。

(小島)

### 著書・花人學と私

—その流れをふりかえる—

著者は大正一五年生、著名な文化人類学者でポピュラーな著書も多い。「はじめに」で「この本は私自身について、しめくくるともいへべきもので(中略)論文集とは異ったものとしてご覧いただければ幸いである」と述べている。内容は三部構成。一つ、著者の名だたる先輩碩学、岡正雄、柳田国男、宮本常一、梅棹忠夫の諸氏を興味深く語っている。

岡氏・割かれた分量は多い。その好奇心とバイタリチーは驚異である。柳田氏の貴族趣味?と宮本氏の庶民性、好対照で面白い。梅棹氏、抜群の記憶力と洞察力と著者はいうが、机の上を片付けられなくて、大阪歴史館長室の大机が、二〇センチの書類の層をなしていたという。次に日本文化、集団の心理、韓と朝鮮の呼称問題など、示唆に富む論文が収められている。ついで、戦後日本の都市・村落生活変遷史年表は、その道の人には有用であろう。

最後に、放送大時代の弟子・五人が文を寄せているが、著者を知る上で面白いものがある。本とはまったく関係がないが著者は、ドラマ功名が辻の子沢山の祖父(江新右衛門の直系の後裔である。ただ著者には、一男一女だけである。

### 放送大学文化人類学研究会発行

### 老眼鏡

加藤周一「日本社会・文化の基本的特徴」

樋口勇雄

これは現代岩波文庫「日本文化のかくれ形」に収められたものです。加藤さんの文章を読むと、いつも頭をコツンとぶたれたような、自分の鈍感さに気づかされ、刺激を与えられます。

もともとそうなのですが、小泉内閣が誕生して以来特に、世の中との違和感を強く感じるようになってきました。二三例にあげると、イラクでボランティアア

### 川柳 小澤 幸泉

潮騒集②

—歩く・シナリオ・似合う—

師の影を詠いつづけて  
なお遠い  
寄り添うて初対面なり  
茶髪の娘  
フレームが手塚治虫に  
似せられる  
騒ぐほど血税だけが  
消えてゆく  
作られた個性が街を  
練り歩き

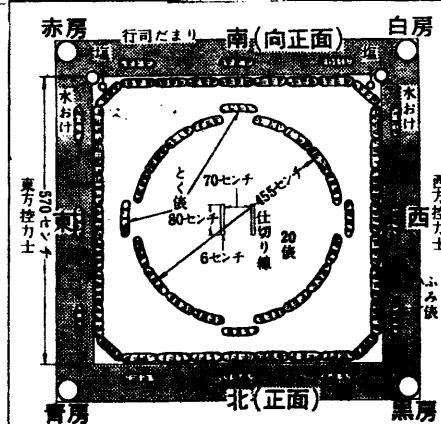


をしていた青年がテロリストに拉致された事件での「自己責任論」の嵐、連日テレビ報道されている北朝鮮による拉致事件、誤解を恐れず言えば、あの被害者の父母のコメントにさえ違和感があります。先の郵政民営化の総選挙で、小泉内閣が圧勝した時には、孤立感のようなものを意識しました。そんな時書店で見つけたのがこの本です。日本の文化や社会、そして日本人の行動様式や意識構造を、三つのキイワードで分析しています。それは競争的な集団主義、世界観の此岸性、時間の概念としての現在主義です。それぞれ説得力があります。活動的な集団を維持する仕組みとして「責任を集団全体で取る」ということからは戦争責任について考えさせられます。また「日本文化の一つの特徴は、集団に超越する価値が決して支配的にならない」ということです。「ということに個人主義が定着しない世の中を感じます。小泉「構造改革」が推進される中で、格差社会が実感されています。それらを反映して、教育基本法や憲法の「改正」案で、愛国心や家族を扶養する義務など共同体型の社会が強調されているようですが、個人の尊厳を中核にした社会連帯、という意見は無力ででしょうか。

### 相撲三知識(七十一)

林 勤

土俵あれこれ



土俵は一辺が6.7mの正方形に土を盛ってつき固め梯形に作り上げる。上面の一辺は5.7m、高さは54〜60cmである。図に見える小俵は直径10cmでその二分の一を埋め込んである。小俵は内側の丸土俵に二十俵のほか、土俵上面の四角の部分や力士が土俵へ上がり降りする時のふみ俵等、全部で六十二俵であるが、使う場所によって長さは35〜80cmの五種類である。

土俵について幾つかのことを述べてみると

- 一、丸土俵の直径は4.6mである。これは各種競技場の中で一番狭いのではないだろうか。一番狭い競技場で一番大きい選手(力士)が勝負するのも面白い。
- 二、直径4.6mはたしかに狭いが上手に円く使えば(うまくまわるとか逃げる等)無限の広さと言える。四角や三角であったら何の面白みもなく勝負が決まると思われる。

土俵はずつと二重土俵(直径は内側が13尺、外側が15尺で、外側が現在の広さ。内側から出ると負け)であったが、昭和六年から内側をなくして外側の俵のみにして現在に至っている(ただ一度だけ昭和二十年秋場所に16尺であったが、紙面の都合でまたの機会に述べることとする)。

三、東西南北四箇所の食み出しの俵は、昔露天興行の時代に雨水を掃きだしていた所の名残であるが、攻められた時に一踏ん張りしてのこすのにとでも役に立つ。徳俵と言われる所以である。

四、テレビでよく映っている中央仕切線は、以前は浅く掘った溝に石灰を流し込んでいたが、足がひっかかることもあって現在は赤土の上にペンキを塗っており、毎

### 俳句

5月6日(土) 宇佐

36番札所 青龍寺

合田青幹

南吹く白亜館に海展け  
菱置作るところが沼の口

吉本伸秋

黄蘗浦の奥に黄蘗浦泊深く  
それぞれの葉にそれぞれの新樹光

中内英明

蟻の通せん坊や沼の径  
海に沿ふ一筋道や花海桐

中内みち代

縄張を夏鶯の競い鳴く  
又一人去り行く遍路花茨

小笠原さちを

白装束白芍薬へ佇める  
山門に立ち暫くは新樹風

山門に立ち暫くは新樹風

日取り組み終了後塗り直している。

五、昔は土俵の四角に柱があり、その上に屋根があった。現在でも、学校やお宮などの土俵には四本柱があり、その上に屋根がある。これは露天なので当然であるが、国技館の中でも四本柱に屋根という形はそのままであった。その柱には、現在土俵の上に置いてある塩かごを吊るしてあったり、満員御礼の張り紙も貼られていた。

この四本柱は当然のことながら観戦の邪魔になるし、力士にも危険なこと等から、いろいろな議論を経て昭和二十七年秋場所から取り除かれた。屋根は吊屋根となつた。

六、土俵は何故高い?、一つの効用は見易いこと。今一つは怪我の防止であろう。

土俵が高いのは、一見危険ではないかと思われるが、力士が重なつて倒れる場合には平面が却って危険である。実は倒れるまでの僅かの時間にあの高さを利用して下側の力士は身体を捻ったり、上側の力士は足を大きく踏み出して重ね餅で倒れるのを避けるなど、危険防止のいろいろな対応ができるのである。

高いが故の怪我も勿論あるけれども、総体としてはやはり怪我防止に役立つ高低差である。

七、「強くなれば地位も名誉も得られる。土俵の中には(地位も名誉も財も)何でも埋まっている。けいこに励め」と叱咤激励されて、汗と砂にまみれてけいこに励む土俵のあれこれである。